



【基本施策の目的】




地域の医療機関が機能に応じて役割を分担し、市民のだれもが個々の状況に応じた適切な医療を受けられるよう、地域医療の充実を図ります。





【基本施策の今後の優先度】



中	基本施策の指標値は基本的に横ばいであるものの、地域の医療機関が連携して、市民のニーズに合う医療を提供できるよう、ニーズを分析し、医師会などに働きかけていく。また、市内の医療体制について、市広報、ホームページにて情報発信を進める。さらに、地域連携パスの推進等、連携登録医療機関との連携を深め、より密度のある関係を構築していく。 しかし、当面は現状の取り組みをしっかりと進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。
---	---

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
市内の医療体制に満足している市民の割合	%	実績	70.7	70.7	66.5	67.9	医療の提供が必要な時に受けられないことや近くに医療機関がないことが、市民が満足していない部分と分析する。 満足度が低い市民は、30代から40代の子育て世代で、子どもの急病に対する医療提供が不十分であることが原因、また、地域別では、大城・光ヶ丘・村中地区などの市民で、地域に医療機関が少ないことが原因と考えられる。 市東部の桃花台地区には日曜診療の医療機関ができ、また、市西部の中下地区にも開業予定であることから、満足度の向上が期待される。	地域の医療機関が連携して、市民のニーズに合う医療を提供できるよう、ニーズを分析し、医師会などに働きかけていきたい。また、市内の医療体制について、市広報、ホームページにて情報発信を進める。
		目指す方向性						
市民病院の地域連携登録医療機関の数	箇所	実績	484	501	510	500	東海北陸厚生局のホームページを確認し、近隣に新設された医療機関に対して登録医療機関の加入をお願いしている。しかしながら、それ以上に廃業される医療機関が多く、登録医療機関の数は減少している。	地域連携パスの推進など、連携登録医療機関との連携を深め、より密度のある関係を構築していく。
		目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見直し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 在宅医療を推進します	往診や訪問診療を行う市内医療機関などの数(医科・歯科・薬科)	箇所	実績	36 (H25年度)	87	96	99	<p>在宅医療サポートセンターが主体となって、定期的に在宅医療に関する勉強会を実施するなど、在宅医療の推進に向けた研修会や、多職種での事例検討会を実施し普及に努めることができた。高齢者が増えることで、在宅医療を受ける方も増えることが想定される。</p> <p>基準(医36歯一薬一) H26(医29歯30薬28) H27(医30歯32薬34) H28(医35歯31薬33)</p>	<p>在宅医療サポートセンターが在宅医療を行う医師を増やすための研修を行っている。往診や訪問診療実施件数は増加しているが、既に訪問診療等を実施している機関の個々の努力によるところが大きく、在宅医療を実施する医療機関自体はあまり増えていない。今後は、訪問診療等を実施しやすくなる仕組みを構築するような取り組みを行う必要がある。そのために、これまで以上に在宅医療サポートセンターへの運営支援を行い、在宅医療の普及・啓発を図っていく。</p>
			目指す方向性						
	多職種による研修会の開催回数	回	実績	1	4	3	4	<p>多職種連携のための事例検討会3回、医師とケアマネの座談会1回を開催し、在宅医療推進の環境整備に努めた。在宅医療サポートセンターが主体となった研修も含め、今後も多職種連携を進めるため、様々な研修会を開催していく必要がある。</p>	<p>引き続き市と在宅医療サポートセンターで研修を行い、多職種連携の推進を図る。また、抽出された課題の解決を図る研修内容の実施に努める。また、ICT(情報通信技術)を導入し、在宅医療・介護従事者が連携できるようにしていく。</p>
			目指す方向性						
	訪問看護を利用している高齢者の数	人	実績	2,770	3,294	3,301	3,999	<p>高齢者数の増加に伴い要介護認定者も増えていることから、在宅で介護する人も増加している。実施機関・体制の整備が進むにつれ、今後も利用者の増加が見込まれる。</p>	<p>引き続き、在宅医療サポートセンターが中心となって、広報や講演等を行い、在宅医療の啓発を行う。また、ICTの利用について関係機関等へ普及・啓発を行うことで、在宅医療を受けやすい体制を整えて、在宅医療を推進する。</p>
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
2 市民病院を充実します	紹介率	%	実績	45.9	53.4	52.7	64.3	選定療養費の引き上げにより、紹介状を持たない初診患者が減少したことによる影響が大きい。今後は、若干の上昇はあるものの、落ち着いていく。	紹介状持参で未予約患者の来院状況を分析し、問題となる受診経緯を一つずつ改善することで紹介予約受診の割合を高める。
			目指す方向性						
	逆紹介率	%	実績	55.2	78.4	79.3	96.1	選定療養費の引き上げにより、紹介状を持たない初診患者が減少したことによる影響が大きい。指標は限界値まで来ており、落ち着いていく。	症状の落ち着いた患者を積極的に地域の医療機関へ紹介し、当院での治療を必要とする患者の受入態勢を確保する。
			目指す方向性						
	市民病院職員数	人	実績	744	845	881	905	病院機能の強化、看護基準7:1の維持、薬剤師の病棟配置、リハビリの充実及び医療の質向上のため、看護師・コメディカルとともに職員の採用に努めた。	より優秀な人材を確実に採用するため、学校訪問やホームページを利用した広報活動を引き続き実施する。
			目指す方向性						
	市民病院の市民満足度	%	実績	66.7	65.4	62.8	55.4	待ち時間は全体としては多少改善したものの診療科によっては長くなっている科もある。要因としては病院全体では外来患者数が減少している中、特定の診療科では依然患者数が多いためであり、引き続き病状が軽度な患者については開業医への紹介を進める。	丁寧な案内に努めるとともに、待ち時間短縮のため、引き続き紹介、逆紹介の仕組みを充実して予約による受診を進める。
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
3 休日急病診療体制を充実します	日曜日や祝日などの休日に受診できる市内診療所数(医科・歯科)	箇所	実績	13 (医:10) (歯:3)	11 (医:9) (歯:2)	13 (医:10) (歯:3)	13 (医:10) (歯:3)	診療日時は、各医療機関の専決事項で、開業医の考えにより増減が生じるが、診療時間の延長について診療可能な限り医師会を通じて働きかける。	休日急病診療所以外に受診できる、休日診療している医療機関を把握し、市広報や市ホームページを使用して市民へ周知する。
			目指す方向性						
	休日急病診療所における急患数(医科)の割合	%	実績	81.2	82.2 (25年度)	81.4 (26年度)	82.0 (27年度)	休日急診診療所で診療を受けるべき患者数の割合が上昇したのは、休日診療所の認知度アップや市民病院が選定療養費の請求が始まったこともあり上昇したと考える。今後、ゆるやかに割合が上昇すると予測される。	軽症患者は、休日診療している医療機関や休日急病診療所を受診するように、休日急病診療所も含めた適切な医療機関の利用を市民へ周知する。
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	—
		展開方向2	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向1	在宅医療推進事業は、小牧市医師会が設置した在宅医療サポートセンターの運営補助を行っているが、平成30年度からは、市町村が設置主体となり、今後は在宅医療のみならず、医療と介護の連携について強化をしていかなければならない。 市は平成27年度から在宅医療サポートセンターの運営を支援(補助金の交付)してきており、医療や介護職に対する定期的な研修や在宅医療に関する相談など、一定の効果は得られてきた。今後、高齢化が加速する中、在宅医療や介護の連携を強化するために、市、医療機関、介護事業所、地域包括支援センター等が協力できる体制を整えるため、現在の在宅医療サポートセンターの機能を充実させる必要があることから、拡大する。
		展開方向2	選定療養費の引き上げ、院内医師への働きかけにより紹介患者数、逆紹介患者数ともに概ね目標数値を達成した。 また職員数についても学校訪問、広報活動などを積極的に進め順調に増員している。これからも紹介率・逆紹介率の維持、看護基準7:1の維持および優秀な人材の採用に力を入れ、ひきつづき新病院建設に向けた、質の高い医療の提供に努めていく。
		展開方向3	市民のために休日急病診療体制を維持するうえで、第2次救急医療機関(小牧第一病院他)、第3次救急医療機関(小牧市民病院)と同様に、第1次救急医療を市民へ提供する休日急病診療所運営事業は重要である。市民が疾病等の重症度に応じた適切な医療提供ができる体制つくりのため、その充実に資源の投入は必要であると判断する。